

「まちづくり市民会議」

提言書

～第五次大阪狭山市総合計画の策定に向けて～

平成 31 年 3 月

第五次大阪狭山市総合計画「まちづくり市民会議」

はじめに

この提言書は、「第五次大阪狭山市総合計画」の策定に向けて、市民協働・市民参画を基本とした取組みを進めるために設置された「まちづくり市民会議」において取りまとめたものです。

「まちづくり市民会議」では、限られた時間のなかではありましたが、ワークショップや「まち歩き」など全8回のプログラムを実施し、地域の「活用すべき資源」や「解決すべき問題」などを洗い出すとともに、まちの将来像についてそれぞれの想いや考えを話し合いました。そのうえで、第五次総合計画においては、地域別（中学校区別）計画を新たに策定することも踏まえ、主に中学校区ごとに私たち自らが実践していきたい取組みと、これを支える行政への期待などを取りまとめています。

このなかには、実現が困難な取組みやすぐに取り組めないもの、また、すでに取り組んでいるものも含まれているかもしれませんが、「まちづくり市民会議」のメンバーが率直に出し合った意見等に基づき取りまとめを行っていますので、今後、実現に向けた検討や施策のさらなる磨き上げなど、施策の改善等につながっていくことを期待するものです。

私たち「まちづくり市民会議」のメンバーは、それぞれの立場からまちづくりを「自分ごと」として捉え、ここに取りまとめた内容も踏まえつつ、今後も引き続き、地域の仲間とともに身近なまちづくりに関わっていきたいと考えています。

大阪狭山市におかれましては、この提言書の内容を十分に踏まえて、第五次総合計画の策定を進めていただくようお願いいたします。

また、計画策定過程及び策定後の計画の推進を通じて、この提言が大阪狭山市のさらなる発展に結びついていくよう切に願います。

第五次大阪狭山市総合計画「まちづくり市民会議」委員一同

目次

「まちづくり市民会議」について	1
-----------------------	---

中学校区編

中学校区編について	3
-----------------	---

狭山中中学校区のまちづくり	4
---------------------	---

1. まちの現状（課題）と取り組みたいこと
2. 10年後のまちの姿（地域の将来像）
3. 地域での取り組み

南中学校区のまちづくり	11
-------------------	----

1. まちの現状（課題）と取り組みたいこと
2. 10年後のまちの姿（地域の将来像）
3. 地域での取り組み

第三中学校区のまちづくり	18
--------------------	----

1. まちの現状（課題）と取り組みたいこと
2. 10年後のまちの姿（地域の将来像）
3. 地域での取り組み

資料編

大阪狭山市の将来像	25
-----------------	----

1. 私たちが描く「大阪狭山市の将来像」
2. 将来像に向けて「私たちができること」についての意見

プロアクションカフェによる取組提案	28
-------------------------	----

第五次大阪狭山市総合計画「まちづくり市民会議」	40
-------------------------------	----

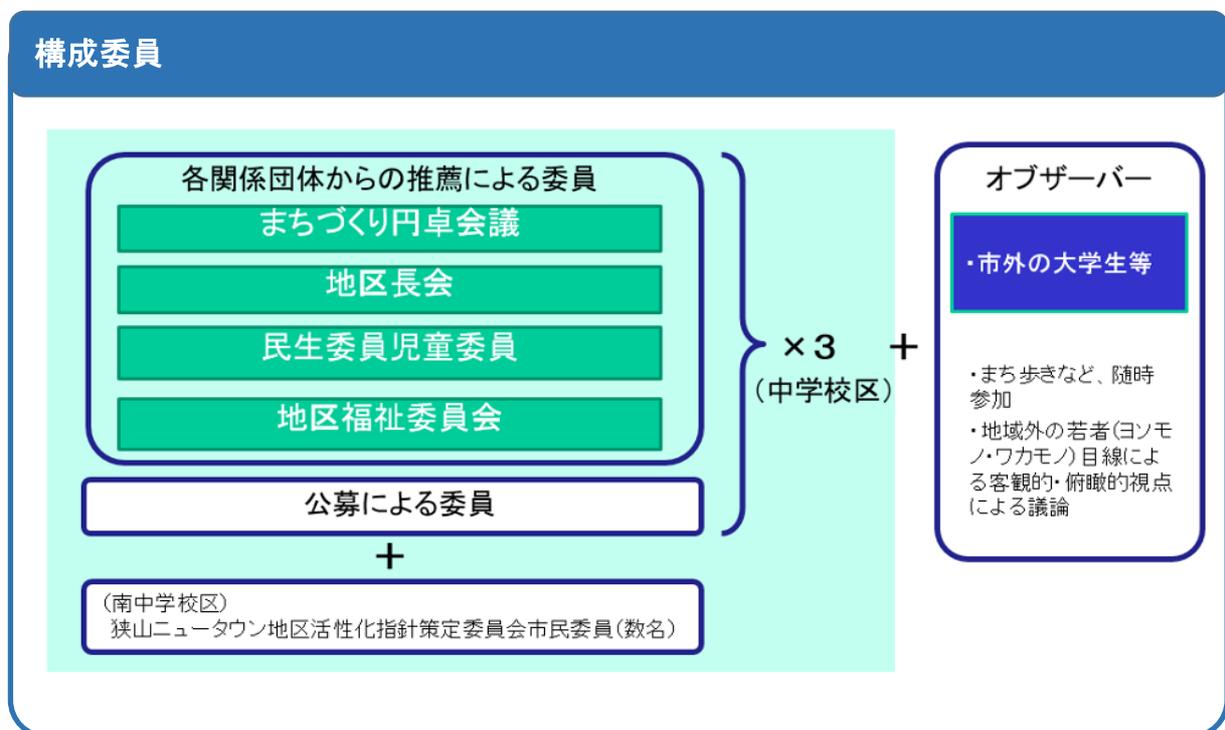
1. 委員名簿
2. 開催経過

「まちづくり市民会議」について

(1) 設置の目的と構成委員

第五次大阪狭山市総合計画「まちづくり市民会議」（以下「まちづくり市民会議」といいます。）は、市が、平成33年度（2021年度）から平成42年度（2030年度）までを計画期間とする新たな総合計画「第五次大阪狭山市総合計画」を策定するにあたり、市民協働・市民参画を基本とした取組みを進めるため、まちづくりへの提言を行う目的で設置されました。

まちづくり市民会議の構成委員は、下図のとおりです。



(2) 検討の経過

「まちづくり市民会議」では、全8回のプログラムを実施しました。全体での会議では、大阪狭山市の魅力の洗い出しのほか、将来像のイメージや取組みの検討を、地域別での会議では、地域（中学校区）ごとの現状（課題）の把握や将来像を検討するとともに、自分たちが取り組みたいことについて議論しました。そして、地域ごとの検討結果は、「中学校区編」として取りまとめています。

回	開催日	内 容（検討項目）	
第1回	平成30年7月27日（金）	全体	・ オリエンテーション（自己紹介など）
第2回	平成30年8月19日（日）	全体	・ 「おおさかさやま」の魅力の洗い出し ・ 自らが描くまちの将来像のイメージ出し ・ 将来像の実現に向けて自らができることの検討
第3回	平成30年9月26日（水）	地域別	・ 中学校区の現状を探るための「まち歩き」のコース企画
第4回	平成30年11月4日（日）	地域別	・ 中学校区ごとに「まち歩き」を実施
第5回	平成30年11月14日（水）	地域別	・ 「まち歩き」をもとに、各中学校区でのこれからの10年のまちづくりの課題の洗い出しと取り組んでいけることの検討
第6回	平成30年12月16日（日）	地域別	・ 「自分たちが明日から始められる」といったリアルな発想からの提案を検討
第7回	平成31年1月23日（水）	地域別	・ 各中学校区の課題の整理 ・ 将来像の設定 ・ 取組みの検討
第8回	平成31年2月18日（月）	全体 地域別	・ 提言書の取りまとめ

中学校区編

中学校区編について

私たちは、自分たちのまち（中学校区）が10年後どんなまちになっていきたいかを考えるにあたり、まず、自分たちのまちの現状（課題）について、改めて共通認識を持つことから始め、続いて地域で取り組みたいことについても意見を出し合いました。

そのうえで、まちの現状を踏まえ、10年後のまちの姿（地域の将来像）を思い描き、その実現に向けて3つの取組みを検討し、「私たちが進めること」と、「行政に期待すること」としてまとめました。



私たちがまとめたこれらの取組みは、私たちが考える「まちの将来像」を実現していくため、自分たちが取り組みそうなことを探りながら発案したものです。しかしながら、これらは、まちがより良いまちになっていくための唯一無二の方策ではありませんし、私たち「まちづくり市民会議」のメンバーだけで取り組めるものでもありません。

市民や関係団体、事業者、行政などさまざまな立場の人々が、英知を結集し力を合わせて進めていくことが何よりも重要です。このため、みんなで取組みの機運を高めていく意味を込めて、みんなで「○○しよう！」と呼びかける表現を用いています。



1. まちの現状（課題）と取り組みたいこと

STEP 1

STEP 2

STEP 3

自らのまち（中学校区）を他の中学校区のメンバーとともに歩いて回るなど、新たな気づきも得ながら、自分たちのまちの現状（課題）について共通認識を持つとともに、地域で取り組みたいことについて、意見を出し合いました。



■ まちのPR、知名度 UP

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪狭山市の歴史的な文化的遺産となるべき場所、家屋等の保存が不十分。 ○ 行政サービスの取組みが市民に伝わっていない。 ○ イベントの情報発信媒体の力不足。 ○ 狭山池の活性化（美味しいお店やホテルといった施設の誘致）。 ○ 観光資源の発掘。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光課の創設、市民の登用。 ○ 市外への広報の充実（関係人口へのアプローチ）。 ○ まちのすべての情報が集まってくるような拠点をつくる。 ○ 多世代の市民が見てもらえるように情報発信の媒体を増やす。

■ まちづくりの担い手

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 世代間の交流が少ない。機会が少なく、コミュニケーションが不足。 ○ まちづくり活動団体のダブりと多さ。（→整理→予算の適正化） ○ 市外勤務の方がまちのことを知らず、まちづくりに関心が持てない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の活性化（→地域あげての取組み→地域の多くの方々の参加意識向上）。 ○ 次世代の地域のリーダーづくり。 ○ 若年時、まちづくりの活動をしていた人材の再発掘。

■ 災害対策

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時支援ボランティアのボランティアセンターの場所の確保や受入体制の構築が極めて困難。 ○ 過去の自然災害の少なさから、災害に対する危機感が薄れていくことへの懸念。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時支援ボランティアは、継続、反復した活動が必要。 ○ 形式的な訓練に対して工夫が必要。

■ まちの開発

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 市街化、市街化調整区域の混在。 ○ 地域活性化への取組不足。 ○ 学区全体的に、既存設備の見直し、新たな誘致、再開発が必要。施設の老朽化。 ○ 狭山駅前近辺の不便さ。 ○ 道路が狭く、大部分で救急車や消防車が入らない。 ○ 交通手段が希薄で不便（バス）。 ○ 医者が多いが買い物施設が無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会活動活性化の検討が必要。 ○ 狭山駅周辺を特別な区域に指定し、生活に便利な施設、店を誘致すること。支援対策が必要。

■ 空き家

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 空き家対策が必要。コミュニケーションの不足も一因。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 空き家コンシェルジュを配置し、マッチングを行う。 ○ 空き家マップの作成。行政は現状把握と権利関係しか見られないが、地域住民は歴史や人間関係が分かる。

■ 介護問題

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 超高齢化社会が進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共助を優先。 ○ 自分達でできる介護と公的サービスを受ける範囲の棲み分け→地域で解決。

■ その他

まちの課題	取り組みたいこと
○ 地区会の会員の減少。	○ 行政に期待することのうち、市民が取り組めることが無いかを見つけていく。 ○ まちづくり、地域整備に大きな支障となっている 이슈（人・物）の洗い出し。 ○ 補助金に頼らない市民活動。 ○ まちの「目安箱」設置。 ○ 実現の可否は別として、民意を聞き取るシステムの構築。 ○ 地区会の会員が減少しているので、増やすための努力をする。

2. 10年後のまちの姿（地域の将来像）

STEP 1

STEP 2

STEP 3

私たちが想う10年後のまちの理想の姿をもとに、いくつかのキーワードを抽出し、まちの将来像を思い描きました。

10年後のまちの理想の姿

- ・ 活気ある事業所がくるようなまち
- ・ 子育て世代が押し寄せるまち
- ・ 子育て世代にとって抜群の環境都市
- ・ すべての住民が安全・安心に暮らせるまち
- ・ すべての世代がつながるまち
- ・ みどり豊かで教育を大切にするまち
- ・ ベッドタウン・終の住処。安全・安心・清潔・通勤至便
- ・ 高齢者と若者が融合し安全と環境に配慮されたまち
- ・ 環境と安全が守られた便利なまち
- ・ 住みたいまち NO1 をめざして！



キーワード

活気、安全・安心、すべての世代、環境



私たちが考える

狭山中学校区の将来像

活気があり、安全・安心な、世代間交流がある住みたいまち！

3. 地域での取組み

STEP 1

STEP 2

STEP 3

まちの現状を踏まえ、10年後の理想のまちの姿を思い描きながら、将来像の実現に向けて、次の3つの取組みを検討し、「私たちが進めること」と「行政に期待すること」を取りまとめました。



取組み①

高野線 3 駅周辺を元気にしよう！

- ・ 狭山駅の活性化（狭山～金剛）

<私たちが進めること>

- 資源（遺産と空き家を含む）を活用しよう！

<行政に期待すること>

- 突破口として、特別な区域を指定して一層の活性化への支援をしてほしい。
- 市民が取り組む地域活動に積極的に入り込んでほしい。
- 共同の取組みに向けて、南海電鉄との積極的な協議に努めてほしい。

取組み②

歩行者にやさしい安全なまちにしよう！

- ・ 道路と交通手段（改革）

<私たちが進めること>

- 地域の「動く力」をつくろう！
 - ・ 課題（改善すべき）を住民で共有化しよう
 - ・ 地域みんなが声をあげよう
- 道路の安全向上を行政に働きかけよう！

<行政に期待すること>

- 市民が取り組む地域活動に積極的に入り込んでほしい。

取組み③

団体間・世代間の交流を活発にして 地域の担い手をつくろう！

- ・ 次世代の地域リーダーづくり
- ・ 世代間の交流の活性化
- ・ みんながみんなを守るまち→多世代間がお互いに補完しあい、行政が仕組みづくりに関わる

<私たちが進めること>

- 新しい交流をつくろう・生かそう！
 - ・ 子育て支援・世代間交流センター（UPっぷ）を有効活用して、子育て・世代間交流を進めよう
 - ・ 交流の多様性を増やそう
 - ・ 行政・地域・各種団体・商工業者の連絡協議会を設置しよう

<行政に期待すること>

- 市民が取り組む地域活動に積極的に入り込んでほしい。

南中学校区のまちづくり

<まちのデータ>

(南中学校区の人口等)

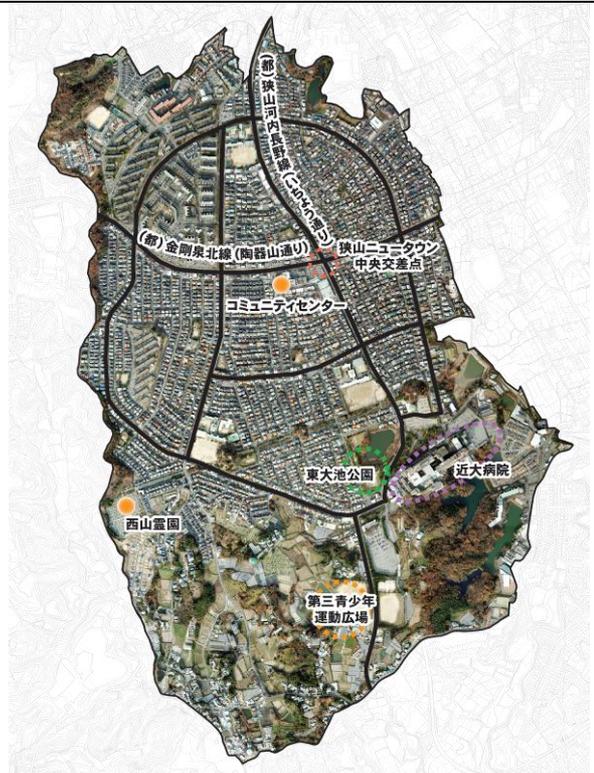
- ・ 面積：約 339ha
- ・ 人口：18,600 人(H27 国勢調査)
- ・ 年齢階層別人口比率：(H27 国勢調査)

15 歳未満	12.5%
15～64 歳	54.3%
65 歳以上	32.9%
- ・ 人口増減率(H27-H22 国勢調査)：-4.2%
(平成 22 年人口 19,415 人)

(南中学校区に含まれる町丁目)

- ・ 西山台 (一丁目～五丁目、六丁目の一部)
- ・ 今熊 (二丁目※の一部、三丁目※の一部、四丁目)
- ・ 大野台
- ・ 茱萸木 (四丁目※の一部、六丁目※の一部、八丁目)
- ・ 大野東
- ・ 大野中
- ・ 大野西

注) 人口集計は、アンダーラインが引かれている丁目のすべての人口を南中学校区に含め、※印の付いた丁目のすべての人口は、第三中学校区に含めています。



1. まちの現状（課題）と取り組みたいこと

STEP 1

STEP 2

STEP 3

自らのまち（中学校区）を他の中学校区のメンバーとともに歩いて回るなど、新たな気づきも得ながら、自分たちのまちの現状（課題）について共通認識を持つとともに、地域で取り組みたいことについて、意見を出し合いました。



■ 中心地再整備

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニティセンター付近（コノミヤなど）の交通事情。車が渋滞する。 ○ コノミヤ付近の駐車場出入口が危ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 駐車場の整備、既存駐車場の有効活用。 ○ コノミヤ、マツゲン、郵便局、商店などの再整備の機運を高める。

■ あまの街道

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ あまの街道の案内板が不足、駐車場が無い。整備、広報して市民の憩いの場に。 ○ あまの街道からのネットワークが無い。（活かしていない） ○ あまの街道の桜の木が台風で被害を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 回遊できるルートと（道の駅的な）溜まり場の整備と発信。 ○ 事業を官民に仕掛ける活動を起ち上げる。

■ 空き家・空き地

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 空き家や団地などの空き室が目立っている。空き家・空き室対策。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 空き家・空き地の活用をしてほしい。人の募集、コーディネート。 ○ 今ある施設等を有効活用する。 ○ 空き家をリノベーションして、市民の交流の居場所を作る。

■ 大野ぶどう

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 後継者問題。 ○ 大野ぶどうの活用が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大野ぶどうのふるさと納税、返礼品活用（冬期は引換券） ○ 直売店を増やす。 ○ ぶどうのオーナー制度。 ○ 家庭菜園のような対応ができないか。

■ 近大病院跡地利用

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 近大病院の移転問題、跡地利用。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近大病院跡地を、5年後を描いて住民も参加して考える。

■ 高齢者

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢化率が市全体より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニティセンター、集会所、自治会館の利用。

■ 交通

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢化に伴う交通の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内循環バスのルート見直し。

■ 景観

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 美しいまちづくり。（花、看板、彫刻） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちに緑や花を。（壁面利用） ○ 開発と自然保護。

■ 子育て環境

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 若い世代、子育てが楽しい、地域で見守られているという安心感。 ○ 子育て世代向けの自然体験の機会がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公園で世代を超えた交流ができる雰囲気づくり。 ○ ワークショップで公園に必要な施設や使い方ルールを検討する。 ○ 自然体験の場を設ける。

2. 10年後のまちの姿（地域の将来像）

STEP1

STEP2

STEP3

私たちが想う10年後のまちの理想の姿をもとに、いくつかのキーワードを抽出し、まちの将来像を思い描きました。

10年後のまちの理想の姿

- ・ 人と人とのつながりあるまちづくり
- ・ お互いに支えあえるまち
- ・ 多世代が生き生き暮らすまち
- ・ 交流から定着へ
- ・ 異世代が交流できるまち
- ・ 子どもから大人まで楽しめ、交流できる公園
- ・ 住民みんな顔見知り
- ・ 声かけ合えるまちづくり
- ・ 笑顔あふれるまち・狭山
- ・ タテ、ヨコ、ナナメのつながりあるまちづくり
- ・ 安心して子育てができるまち
- ・ みんなで子育てしましょう
- ・ 歩いて楽しいまち
- ・ ぶらぶらと歩きたいまち
- ・ 新たな回遊ルート あまの街道を体験しよう
- ・ 歩いて楽しいみんなの道を体験しよう
- ・ 緑豊かなまちづくり
- ・ 花のあるまち
- ・ 木々・花・山・池、自然とふれあうまち
- ・ 健康づくりのあるまち
- ・ オープンカフェのあるまち さやまニュータウン



キーワード

つながり、多世代、交流、挨拶、声かけ、笑顔、子育て、楽しい、みどり



私たちが考える

南中学校区の将来像

若い力を呼び込むまち！

3. 地域での取組み

STEP 1

STEP 2

STEP 3

まちの現状を踏まえ、10年後の理想のまちの姿を思い描きながら、将来像の実現に向けて、次の3つの取組みを検討し、「私たちが進めること」と「行政に期待すること」を取りまとめました。



取組み①

花いっぱい！安心の住環境づくり

<私たちが進めること>

- 目配りがある安心をつくろう！
 - ・ みんなの目で空巣に狙われない安心なまち
 - ・ 塀のない（低くする）庭の共用化（運動）
 - ・ 安心、安全なまち
 - ・ 仲間を一步一步増やす努力
- 花いっぱい運動を盛り上げよう！
 - ・ 壁に花を吊ろう
 - ・ 街区ごとに同じ花を
- 空き家を活用しよう！
 - ・ 空き家のオーナーと連絡をとる、利活用の意志調べ
 - ・ 空き家をリノベーションしてゲストハウス or 地域の人々の居場所
- 子どもの居場所をつくろう！
 - ・ 子どもの安全な遊び場、ベビーカーを押して集える場所をつくる

<行政に期待すること>

- 高齢者等がくつろげる居場所を増やしてほしい。
- 「みどりの基本計画[※]」を市民へPRしてほしい。
- 街路樹を整備してほしい。
- 空き家活用だけでなく、既存の公的施設をもっと活用してほしい。
- 親子近距離住宅の補助制度をつくってほしい。

※ 「みどりの基本計画」は、都市緑地法に基づき市町村が定める計画で、中長期的な視野に立ち、緑地保全、緑化推進及び緑のオープンスペースに関連する施策を策定する総合的な計画です。

<私たちが進めること>

- 多世代間で交流できるまちの居場所をつくろう！
 - ・ 地域活動への参画
 - ・ 現在取り組んでいる活動への参加を増やす
 - ・ 人と人との交流の場としてのコミュニティセンターの活用
 - ・ 仲間と支え合い
 - ・ 保護者への精神的支援
 - ・ （市民交流の）意識啓発
- お互いにあいさつ・声かけをしよう！
 - ・ 子どもに対する声かけ運動
 - ・ 独居でも声をかけあえる安心なまち
 - ・ あいさつの励行
- 家、学校以外の場所づくりとして、小学生対象の宿題教室を開催しよう！
 - ・ 学校、園との交流

<行政に期待すること>

- 交流施設を整備してほしい
- 市民農園など、憩いの場所をつくってほしい
- 大人も子どもも楽しめる公園を整備してほしい
- 集会所を拡充してほしい
- （市民交流の意識啓発に資する）表彰制度を創設してほしい
- 各種イベントを開催してほしい
- 人間教育を拡充してほしい（学校教育）
- 子どもたちにどんな公園が欲しいか、アンケートや絵画募集で意見を聞いてほしい。

<私たちが進めること>

- 自然環境を守ろう！
 - ・ 花と緑あふれるまちづくり
 - ・ 自然保護 緑を守る
 - ・ 自然を守る
 - ・ ごみのない、きれいなまち
 - ・ まちの掃除
 - ・ ごみを出さない努力
- まち・みちを花で彩ろう！
 - ・ 花壇を作る
 - ・ 花いっぱい。活動の参加者を増やす
 - ・ 歩きたくなる花のあるまち
- 散策ルートを発信しよう！
 - ・ 陶器山ウォークラリーの参加者を全市的なものに
 - ・ あまの街道・大野台遊歩道・大野ぶどう園など南中地区自然ルート及び溜まり場の整備と発信

<行政に期待すること>

- 歩道を整備してほしい。
- 陶器山を整備してほしい。
- 自然保護に努めてほしい。
- 官民が連携して事業を進める仕組みをつくってほしい。
 - ・ 転入者に転入してきた理由をアンケートで聞き、まちづくりに活かす。
 - ・ まちのプロモーションビデオを HP でながす。
 - ・ 協働のまちづくりに関する行政の窓口を一本化してほしい。

第三中学校区のまちづくり

<まちのデータ>

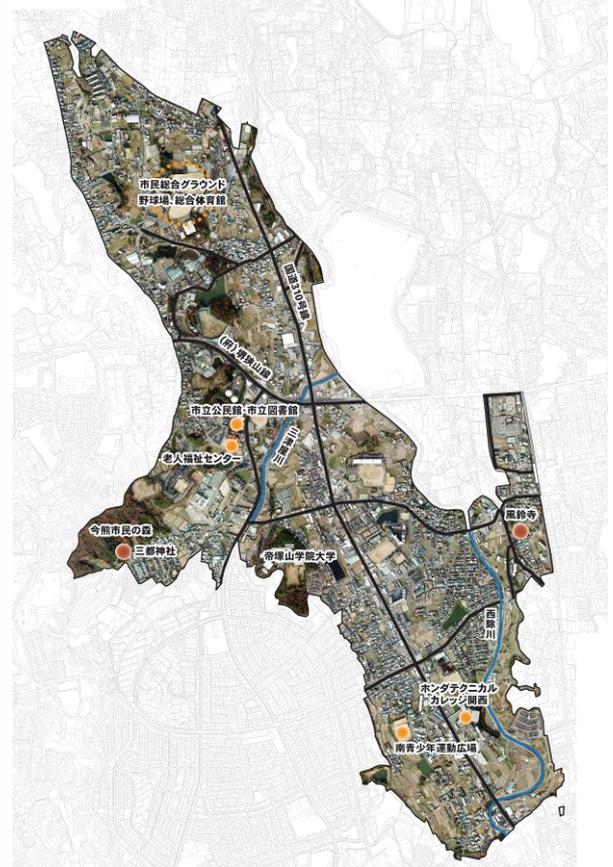
(第三中学校区の人口等)

- ・ 面積：約 461ha
- ・ 人口：17,947 人(H27 国勢調査)
- ・ 年齢階層別人口比率：(H27 国勢調査)
 - 15 歳未満 13.3%
 - 15～64 歳 62.7%
 - 65 歳以上 23.2%
- ・ 人口増減率 (H27-H22 国勢調査)：
-3.16% (平成 22 年人口 18,532 人)

(第三中学校区に含まれる町丁目)

- ・ 池之原 (二丁目の一部、三丁目～四丁目)
- ・ 岩室
- ・ 山本北
- ・ 山本中
- ・ 山本東
- ・ 山本南
- ・ 茱萸木 (一丁目～三丁目、四丁目の一部、五丁目、六丁目の一部、七丁目)
- ・ 今熊 (一丁目、二丁目の一部、三丁目の一部、五丁目～七丁目)
- ・ 半田 (一丁目の一部、二丁目～四丁目、五丁目*の一部)
- ・ 東茱萸木
- ・ 西山台 (六丁目*の一部)

注) 人口集計は、アンダーラインが引かれている
丁目のすべての人口を第三中学校区に含め、*
印の付いた丁目のすべての人口は、狭山中学校
区または南中学校区に含めています。



1. まちの現状（課題）と取り組みたいこと

STEP 1

STEP 2

STEP 3

自らのまち（中学校区）を他の中学校区のメンバーとともに歩いて回るなど、新たな気づきも得ながら、自分たちのまちの現状（課題）について共通認識を持つとともに、地域で取り組みたいことについて、意見を出し合いました。



■ コミュニティ

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none">○ 歩いていても人と会わない。○ 既存住民と転入者の関わりが少ない。○ 自治会の役員の成り手がいない。○ 行事の参加度合いは秋祭りが主である。○ 地域の中の人々が気楽に集まれる場が少ない。	<ul style="list-style-type: none">○ 親子で参加する、できる行事を考える。地域で子どもを育てる。○ 子育てを通じて地域との関わりを深める（地域との関わりで親育ち）。○ 地域で触れ合いのできる行事を考える。

■ 土地事情

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none">○ 市街化調整区域が多い。市街化区域に変更すれば住民や税収が増え、活性化できる。○ 田畑が別の建物になってきているので、風景が変わってきている。○ 農地の継ぎ手がいない。○ 場所によっては買い物が不便。	<ul style="list-style-type: none">○ 市街化調整区域が多い問題に対しては、行政から、大阪府等に働きかけを行う。○ ルールやマナー、ノウハウを教わって市民農園を正しく使う（農家の方が先生、JAや行政が農家・利用者の窓口）。

■ 交通事情

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 道が狭い。生活道路なのに通行量が多い。自転車の飛び出しも多い。 ○ 公共施設が集まっているのに、横断歩道が危ない。（信号があるものと無いものがある） ○ 幼稚園、小学校、中学校、高校の通学路があるため子どもが多く、危ない。 ○ 通学用のグリーンベルトがガードレールの道側に設置されている箇所があり、不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 警察に交通事情を理解してもらい、対策を打ってもらう必要がある。 ○ 横断歩道全体の見直し。 ○ 自動車・自転車・歩行者のルールやマナーの徹底と警察との協力による交通安全の強化。

■ 情報発信

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高野街道の魅力発信。 ○ 歴史的価値のある建物などが多いが、広報や説明がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 魅力発信の情報誌を作る。（学校区ごとや市民と一緒に） ○ 市全体として魅力発信の取組みを。 ○ 円卓マップをもっと使ってもらおう！

■ 公園・遊び場

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの遊び場が無くなってきている。公園などの整備が全くされていない場所も。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公園の雑草処理だけでも良いのでやる。 ○ 地域の公園活用。プレーパーク（冒険遊び場：子どもが大人の見守りの中、自分の責任で遊ぶ場）をひらく！

■ ごみ問題

まちの課題	取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ コンビニの数が多いので、路上でゴミを捨てる人が多く、ゴミが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自販機や路上放置のゴミ問題を考える必要がある。 ○ まちをきれいにするプロジェクトなどの活動をこつこつと行う。 ○ ゴミ捨て禁止の啓発・PRと、効果のある取組みの研究・実施を強力に進める。

2. 10年後のまちの姿（地域の将来像）

STEP 1

STEP 2

STEP 3

私たちが想う10年後のまちの理想の姿をもとに、いくつかのキーワードを抽出し、まちの将来像を思い描きました。

10年後のまちの理想の姿

- 交流・イベント・拠点
 - ・ 楽しい農村 産直売り場（野菜など）があるまち
 - ・ みんなが集えるまち
 - ・ 季節のイベント楽しいよ（さんとまつり・グラウンドゴルフ・盆踊り・だんじり・さくらまつり）
 - ・ グラウンドゴルフ大会も、第三中学校区主催で定着させる予定
 - ・ ほっこりできる（プレーパーク）児童公園・整備
 - ・ 産直で交流
 - ・ 世代間交流
- 歴史がある
 - ・ 昔（歴史）と今（新しいまちなみ）の融合
 - ・ 昔ながらの環境が残るまち
 - ・ だんじりが9台ある（全市で12台）
- 農地の保全方法が大事
 - ・ 既存集落が多い（市街化調整区域）（住み良い住宅地域の市とする）



キーワード

ほっこり、昔の歴史、季節を感じる、交流（新旧の）、楽しい（世代間の）、農村



私たちが考える

第三中学校区の将来像

ほっこり校区！

3. 地域での取組み

STEP 1

STEP 2

STEP 3

まちの現状を踏まえ、10年後の理想のまちの姿を思い描きながら、将来像の実現に向けて、次の3つの取組みを検討し、「私たちが進めること」と「行政に期待すること」を取りまとめました。



取組み①

歴史魅力 UP 再発見 <西高野街道>

- ・ 地蔵・神社・大師堂・街道など、身近な歴史物を掘り起し

<私たちが進めること>

- まちづくり円卓会議※主催のウォーキングに参加しよう！
- 歴史を再発見するため、地域の名所史跡マップをつくろう！
- まちづくり円卓会議で作ったマップをさらに充実させて、魅力を高めよう！
- イベントの周知をみんなに広めよう！
- みんなに活動を呼びかけよう！
- 転入者や若い世代に地域の歴史を知ってもらおう！

<行政に期待すること>

- 史跡・地蔵の案内板などを整備してほしい。
- パンフレットやマップの費用を負担してほしい。
- 学識経験者の研究などの裏付けなど、情報の提供をしてほしい。
- 学校の授業などにも活用して、子どもに地域をさらに知ってもらいたい。
- 市民への広報・PRをお願いしたい。

※ 市では、多くの市民に身近なところからまちづくりに主体的にかかわる市民自治への契機づくりの場として、地域内の自治会や住宅会、NPO、市民活動団体、事業者などが中学校区を単位として、自主的に一堂に会してまちづくりについて話し合う場である『まちづくり円卓会議』制度を設けています。

取組み②

世代間交流〈子育てが軸〉

〈私たちが進めること〉

- 子育てボランティアに協力しよう！
- 子どもの好きなイベント等の種類を考えよう！
- 移動型プレーパークを実施しよう！
- まちづくり円卓会議主催の盆踊りを拡大しよう！
- 既存集落と開発地域との交流を実現しよう！

〈行政に期待すること〉

- 児童公園を整備してほしい。
- 公園利用をやすくしてほしい。
- 遊具の予算を援助してほしい。
- 子育てサポーターを充実させてほしい。
- 他市のプレーパークの情報を収集してほしい。

取組み③

産直で交流〈都市・農村〉

〈私たちが進めること〉

- 産直をみんなで作ろう！
 - ・ 賛同者の確保、生産者の協力
 - ・ 協力者募集
 - ・ 野菜の提供 土産の美味しい野菜
- フラワーガーデンを作ろう！
- 既存集落と開発地域との交流を実現しよう！

〈行政に期待すること〉

- 産直の場所を提供してほしい。
- 農地制度を緩和してほしい。
- 広域農場の仕組みをつくってほしい。

資料編

私たちが描く！

大阪狭山市の将来像

「まちづくり市民会議」では、ワールドカフェ[※]の手法も用いて、大阪狭山市の魅力を洗い出すとともに、残していくもの、または磨いていくものは何なのかを探りながら、私たちが描く「大阪狭山市の将来像」と、将来像に向けて「私たちができること」について意見を出し合いました。出し合った意見を整理したものを以下に記載しています。

※ ワールドカフェとは？

- ・ 1テーブルあたり4人が座り、「20分間会話し、それぞれ別のテーブルに移動する」というラウンドを3ラウンド行って、最後にフロア全体での意見共有を図るものです。
- ・ これは、「カフェのようなくつろいだ環境での、自由闊達な会話を通じてこそ、創造的な集合知が得られる」ということを科学してつくられた手法です。
- ・ 地域住民、行政など様々な立場の人が、いっしょに考えて「おしゃべり」する濃密な時間を大切にしています。

1. 私たちが描く「大阪狭山市の将来像」

■ 交流・つながりのあるまち

- 近所の人たちと笑顔をかわせるような優しいまち。
- 子どもが伸び伸びとし、高齢者との交流ができるまち。
- 人との“つながり”をもっと持てるまち。
- コンパクトで顔が見えるまち。
- 子どもから大人までのつながりがある場所。
- 地域による温度差を解消されたまち。
- 人と人とのつながり、まちと人とのつながり、市民同士（多世代間）の交流の場があるまち。
- 環境や社会情勢が変化しても、つながりを大切にしたい人の心は変わらないまち。
- 協力し合う人が集うまち。

■ 子育て世代が住みたいと思うまち

- 子育てを中心に生活を行うのに最適なまち。
- 子育てしやすいまち。
- 子どもたちが将来大人になった時、住みたい、関わりたいと自然に思うようになるまち。
- 若い世代がたくさん住み、その子どもも生き生きと生活しているまち。

■ 住みやすいまち

- 暮らしの拠点としての住みよい環境が整っているまち。
- 良い点を残し、課題を克服し、コンパクトで、ネットワークの充実した、住みたいまち、行きたいまち、選ばれるまちとして持続的に発展することで都市価値の向上につなげていきたい。
- 住みやすいまち、日本一。
- 住みよい、完全な住宅地域の市とする。
- すべての人にとって「住みやすい」まち。
- 市街化調整区域が多く、これを市街化し住宅地を開発、税収も増える。
- 安心して、一生住めるまち。
- 新しい魅力を創出するまち。
- 「このまちが好き！」と言える人がたくさんいるまち。

■ 自然が豊かなまち

- みどり豊かで、教育に力を入れているまち。
- 狭山池の魅力をより一層高めるための努力。

■ 市民と行政等が協働するまち

- 市民と行政との風通しがよい仕組みができたまち。
- 行政と市民、親と子、高齢者と若者がつながる住みよいまち。

■ 歴史・伝統文化が息づくまち

- 狭山の伝統文化が大事にされているまち。
- 歴史文化遺産を活用したまち。

■ その他

- 規制・誘導のまちづくりから地域・地区に応じたまちづくりへ。
- 医療の充実したまち。
- スマート・コンパクトシティの実現。

2. 将来像に向けて「私たちができること」についての意見

■ 交流・つながりの促進に関する意見

- 身近な人に思いやりを持って接する。あいさつの励行。
- 近所付き合いを大切にし、老人も現役世代も交流して話すようにしていく。
- 交流の機会を増やす。
- 気楽に話し合いができる環境づくり。
- 地域住民のコミュニティづくり。

■ 魅力発信・PRに関する意見

- 市内外を問わず、多くの人に市の魅力をPRしていく。
- 「大阪狭山」のイメージづくり。
- 新たな市の魅力づくり。
- 他のまちがあこがれるまちに変えていく。

■ 市民参加・ボランティア等に関する意見

- 人と人とのつながりが今の大阪狭山市をつくっていると思うので、みんながまちづくりに関わっていけるよう、まずは自分が積極的に参加する。
- ボランティア精神が大切。
- 未来を担う子どもの育成。
- 市民一人ひとりの意見の統合を図るシステムづくりに参画。

■ 身近な活動に関する意見

- 自分の気持ちに余裕を持てるよう心掛け、それを他の人にも波及させていく。
- 関心のあることから「やってみて」、関心のあるところに「行ってみる」こと。

■ 狭山池の活用に関する意見

- 狭山池の魅力をより一層高めるための努力。

■ その他の意見

- 「住みよさ」に特化か、「便利さ」に特化か、ゴールを決めてのまちづくりを。
- 大きな市ではできない、コンパクトシティとしての考え方を持つ。

プロアクションカフェによる取組提案

プロアクションカフェ[※]の手法を用いて、「自分たちが明日から始められる」といったリアルな発想からの提案も検討しました。

※ プロアクションカフェとは？

- 様々な人の知恵を集めて具体的な行動を生み出していこうとするもので、ワールドカフェの対話の手法がアレンジされたものです。
- ワールドカフェでは、1テーブルあたり4人が座り、「20分間話し、それぞれ別のテーブルに移動する」というラウンドを3ラウンド行って、最後にフロア全体での意見共有を図ります。
- プロアクションカフェでは、各テーブルに提案者（コーラー）1名と貢献者（コントリビューター）3名が座り、提案者が移動しない点が異なります。



子育て世代大好き都市への変革

～ 世代間交流を通してのまちづくり ～

<p>計画 目標</p>	<p>空き家を活用するなどして、 地域の子育て環境として有効活用されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家のうちの1軒（若しくは数軒）を子育て世代への情報提供（交換）や集まりの場所（子育ての悩みをお互いの情報交換で少しでも解決していき、連帯感の中から明るい子育てができるように促す）として有効利用するなどし、市民の手で運営できるように活用する。 ・ それにより子育て環境の醸成と非子育て世代への関心度向上と協力を求める。 ・ 結果的に行政施策と相まって子育てにとって抜群の都市として転入誘致になればよい。
------------------	---

<p>概況</p>	<p><現況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開発地域と既存集落のギャップが多い ・ 商業施設が少ない ・ 国の史跡として貴重な狭山池へのアクセスが悪い ・ 空き家が多い ・ 狭隘道路が多く危険 ・ 世代間交流が希薄 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅が無人 ・ 子育て環境が整備不十分 <p><資源></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家等の有効利用 ・ 歴史ある施設や史跡 ・ さやま池の有効活用 ・ 小規模飲食店を活かす ・ 商業者のボランティア参入
<p>○ 空き家は人口増と逆行となるため早期の解決（有効利用）が望ましい。</p>		

時点	節目目標 (マイルストーン)	取組み	備考	
6か月後	訪問調査を行う空き家の選定と、アンケート調査票作成のためのヒアリングを終えている。	私とPT委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家調査・子育て世代へのアンケート調査のプロジェクトチームを立ち上げる（3か月目途） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既に実施している同様の団体があるので、コラボレーションも視野に入れる。 ・ チラシづくりについての有効なアドバイスと作成のレクチャーを受ける（印刷業者・ウェブデザイナー・関係事業経験者）
		市民・行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政（関連団体）に資料として蓄積されているものの開示を依頼。 ・ 権利関係や今までの取組みをレクチャーしてもらう。 ・ 「官」ではできないハードルを市民が受け持つ協力体制の構築を促進する。 	
1年後	空き家問題の個別事情のまとめとアンケート結果の集計ができている。	私とPT委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート対象者を選定する（行政や他団体にもヒアリング） ・ 空き家の訪問調査、アンケート調査を実施する（6か月目途） 	

時点	節目目標 (マイルストーン)	取組み		備考
1年～ 1.5年後	利用候補として選 定した家屋につい て、権利関係や財務 的内容が検証でき ている。	PT	<ul style="list-style-type: none"> 利用候補とする家屋を選定する。 商業者（NPO 含む）などから家屋運用の担い手を決める（できれば PT を中心に市民の手で運営できることが望ましい） 	<ul style="list-style-type: none"> 選定はあくまでも PT 主導で、相手がある事なので、トラブルが起きないように、また永年に渡って維持できるように要素を洗い出して詰めていく。 実際に利用できる家屋と方針を決めていく際に、その後の具体的運用についての専従者の選定が必要となる。
		行政	<ul style="list-style-type: none"> 契約業務にあたってのリーガルチェックと財務的補助を行う。 	
1.5年～ 2年後	対象家屋整備に対 する予算・運営者・ 運営方針・利用対象 者などが決定して いる。	PT	<ul style="list-style-type: none"> 対象家屋の安全性確保（建基・防犯・防災）のための調査と改装項目の洗い出しを行う。 運営に携わるスタッフ（団体）との協議を通じて運営計画を策定する。 PR 活動に対する素案を策定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内の専門業者とタイアップし、技術的なアドバイスをもらい、事業予算を計画する。
		行政	<ul style="list-style-type: none"> 出そろった案（インフラ面・財務面）に対し、行政がどこまで補助できるのかを協議する。 同時に予算全体についての最終案の採択と予算付けを行う（補助以外にも協賛団体を募る・クラウドファンディングなど） 	

(参考)

時点	段階	取組み	
2年～ 3年後	対象家屋の 整備期間	PT	<ul style="list-style-type: none"> 整備期間中の管理と各種許認可関係確認。 スタッフ募集と各種 PR 策の完成・配布（PR 誌は分かりやすく誤解を招かないものに）
		商業者	<ul style="list-style-type: none"> 工務店は実際の工事。 運営者は運営計画の見直しと各種申請。
		行政	<ul style="list-style-type: none"> 予算の申請と担当グループへの移管及び役所内や他の関連団体との連携体制を構築する。

時点	段階	取組み	
3年～ 4年後	試験的運用開始	PT	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門運営者以外にもボランティアを募り、安全確保と守秘義務を最優先としながら、できるだけ永くかつ安価な運営ができる体制を模索する。
		商業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商売として成り立つことは難しいので、PTを中心として市民が運営を主に行う中、専門家としてのアドバイスと手助けを行う。
		行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き誘致と他団体との連携を受け持つ。
4年～ 5年後	本格運営開始	PT	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生する費用の予算付け。 ・ 各パートの責任者決定と配置。 ・ 長期運営するための他団体との契約や相互理解の上での人員提携等。 ・ 各種トラブルに対するマニュアル策定。 ・ 行政窓口との定期連絡協議会設置。 ・ 利用者の意見をお聞きする「目安チーム」を設置し（場合によっては外部専門家）、トラブルや事故を未然に防げる体制を構築。 <p>→ 第2の施設を模索 → モデルケースとなり他市他県からも視察に来るようなことになればうれしい！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「施設（場所）さえ見つければ運営はやります」という団体はあるので、当初から関係団体への声掛け・相談は欠かせないこと。 ・ あくまでも市民の取組みなので、 <ol style="list-style-type: none"> ① 予算を安価に抑えること ② 一部のスタッフに負担が集中しないこと ③ 長く続くこと ④ 永続的に行政からの支援が得られること ⑤ 興味を持っていただく方が右肩上がりに増えること（←ここが肝要；子育て世代にとって魅力ある都市にすることが最大の目的のため、そのプロセスとして） ⑥ この取組みが拡大増加すること ⑦ 関係者全員が Win Win の関係となり、他の課題にも派生できる取組みとなること 等々

(プロアクションカフェにおける発表)

- ・ 大阪狭山市が子育てに最適な環境であり、ランキング上位に入る都市になることをめざしたい。市民の関心が高まり、胸を張ってPRできる都市になればよい。
- ・ 空き家対策とのコラボレーションを考えている。ただ、空き家の活用は金銭面、安全面、法的問題があり、簡単ではない。そのため、空き家の活用は必須でなく、代替できる施設があればそれでよい。
- ・ 子育て環境をよくする取組みは行政でも行われており、既存団体も多い。ただ、ハードルを低くしたいという思いがあり、申込や会員登録、会費がなく、いつ来て、いつ帰ってもよいものができればよい。また、この番号にかければ10分以内に駆けつける、といった緊急対応ができるとうい。
- ・ ハードルを低くすることと、セキュリティの問題は相反するものである。そこは専門家の意見を聞きながら、行政の協力もいただいて、進めていきたい。
- ・ 他の提案ともコラボレーションできる。「提案2：狭山駅前を若い力で活性化！」では、子育てをしている方を連れていくことができる。「提案3：陶器山を経由する新たな回遊ルートの設定」では、イベントとして陶器山に行くことができる。「提案4：歩いて楽しいみんなの花道づくり」では、一緒に取り組む。
- ・ 市民会議が終わって雲散霧消にならないことが一番大事である。その後にきちんとつながることが重要である。
- ・ 行政の方が貴重な意見を持っており、積極的にアドバイスをいただいた。行政と市民はチームだと思っている。取組みを進める中で、法的に難しい問題や、民事不介入の問題も想定されるので、そこを誰が受け持つかを考え、チームとして取り組んでいきたい。

提案 2

狭山駅前を若い力で活性化！

～ 学生と市民が協働してにぎわいの駅前に ～

計画 目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 狭山駅前が各種店舗の並ぶ活気あふれたまちなみになっている。 ○ 若い世代の居住が進み、高齢化率も低下している。 ○ いろいろな試みで、一時的な賑わいとまらないような事業展開が行われている。
----------	--

概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狭山駅は無人駅で駅前店舗も少ない。 ・ 車両は通過車両のみ。 ・ スーパーなどの生活必需品購入店舗がない。 ・ その他の業種の店舗も入れ替わりが激しい。
----	---

時点	節目目標 (マイルストーン)		取組み	備考
1年後	「狭山駅前にぎわい運営委員会」が立ち上がっている。	自分たち	・ 運営委員候補の方への声掛けを行う。	
		地域	・ 運営委員候補者を選出する。	
		行政	・ 地域への協力要請をする。 ・ 場所の提供。 ・ 大学との連携依頼。	
		学生	・ 地域住民とのディスカッションを行う。 ・ にぎわいを生み出す手法を創造する。	
3年後	駅前地区の整備が始まっている。	自分たち	・ 学生と一緒ににぎわいを生み出す方法を考える。	
		地域	・ 整備計画によって権利関係がある場合は協力を依頼する。	
		行政	・ 整備計画のタイムテーブルを作成する。 ・ 地域への説明、関係省庁との連携。	
		学生	・ 地域住民とのディスカッションを行う。 ・ にぎわいを生み出す手法を創造する。	
5年後	駅前が活性化し、毎日何か催され、人であふれている。	自分たち	・ にぎわいが一過性にならぬように継続性を持たせる活動を行う。	
		地域	・ 新しく居住した住民を巻き込み、事業の継続性を確保する。	
		行政	・ 住民と協働し、催しがスムーズに開催されるようにサポートする。	

(プロアクションカフェにおける発表)

- ・ まずは市民の要望をくみ取るなどソフト面から始めて、機運が高まっていき、この場所では難しいとなった時、施設整備などのハード面が関わってくる。
- ・ にぎわいのスペース確保が必要であり、駅前ロータリーや駅の奥にある廃屋が問題という意見が出た。これは、じっくりと取り組むべき案件である。
- ・ 狭山駅周辺の3地区について、自治会に参加される若い方は組長になれば会議には出るが、それ以上のことにはあまり介入してくれないという話があった。そこで、『よそ者、若者、ばか者』が地域を盛り上げるということで、学生に地域をかき混ぜる役割を担ってもらえば、活性化するのではないかという意見が出た。
- ・ 大学との連携を具体的に考えた時、地区に住む学生では「よそ者」から外れてしまうので、最近協定を結んだ帝塚山学院大学を含めたいと考えている。
- ・ 駅前通りに学生による屋台バーや朝市を開いて、地域の方が手作りしたものを販売してはどうかという意見も出た。それを可能にするためには、道路関係の問題もあり、難しいのではという意見が出た。ならば、歩行者天国にしてはどうかということで、年1回、半年1回、月1回としていけば、なんとか可能ではないかという結論になった。
- ・ 狭山駅周辺の歴史のPRをするとよい。かつては南海の終着駅だった、富士車両があった、これらの要素が観光に役立つのではないか。関係人口、鉄道が好きな人にも来てもらえる。
- ・ 駅前でクリスマスツリーのイルミネーションをして、スタートアップとして活用する意見も出た。
- ・ 有名な店舗、行列ができる店舗を1つ誘致すれば、人が集まるのではないかという意見もあったが、それでは地域の方たちで地域全体を盛り上げることから外れてしまうということにもなるかもしれない。
- ・ 地域間で温度差がある。旧地区が2つに新地区の3つである。旧地区2つだけでも温度差があるのに、そこに新しい地区があってまとめるのが大変である。まずは個々で盛り上げていき、盛り上がった後、5つをまとめると話が進みやすい。
- ・ 市民会議が終わった後から可能なことは、朝市や屋台バーである。行政の方の力を借りれば可能であるという道筋がわかったことはありがたい。

提案 3

陶器山を経由する新たな回遊ルートの設定

計画 目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 狭山池を起点に、陶器山から狭山ニュータウンをめぐり狭山池方面に戻ってくる回遊ルートが設定されている。 ・ 自然環境以外の楽しみも提示すること、狭山ニュータウンへの関心を持ってもらうことが考慮されている。
----------	--

概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狭山池と並ぶ自然環境豊かな場所として陶器山があるが、陶器山のみをウォーキングや散策の目的地として利用している。 ・ 陶器山から別の方向に行くルートが地元の人しかわからないため、陶器山を経由してどこかに行くという面的な広がりがない。 ・ 休憩したり食事をしたりする場所がわからない、どのように帰ればいいのかわからない(最寄りの交通機関)
----	---

時点	節目目標 (マイルストーン)	取組み		備考
半年～ 1年後	現状調査が済んでいる。	自分たち	・ 新たなルートの検討、下見をする。	
		地域	・ 食事や休憩する場所の調査をする。	
		地域	・ ルート周辺の埋もれた魅力の発掘をする。	
1年半後	ルートの設定がされて、マップが作成されている。	自分たち	・ 情報を取りまとめたうえでルートを設定する。	
		自分たち	・ マップを作成する。 ・ 市と調整の上、マップの印刷を行う。	
		自分たち	・ 市と共にPR計画や標識設置計画を検討する。	
2年後	標識等の整備が済んで、ルートのPRが実施されている。	自分たち	・ 案内標識の設置について市と調整する。	
		地域	・ 市と共にPRを実施する。	

(プロアクションカフェにおける発表)

- ・ 狭山池を中心に、市民が行ってみたいというルートを作る。市内全域が理想だが、まずは陶器山を中心に議論を進めた。
- ・ 陶器山を歩くだけならば、歩くだけで終わりになる。その中でゆっくりできる場所、ご飯を食べる場所があるとよい。そこで、商工会で行っている「さやまバル」のノウハウの活用が考えられる。
- ・ また、大阪狭山市には歴史があるので、それを回遊ルートと重ねて地図を作れば、自分の好みに合ったルートで周遊していただけるのではないか。
- ・ 陶器山に行くと、駐車場がほとんどない。その対策として、近くには遊休農地があるので、それを市が借り上げて駐車場にすれば、所有者も喜ぶという意見もあった。
- ・ 周遊する場合、たまり場を作り、近所の人が出てきてお茶を出してくれる、といった昔のお遍路さんのような雰囲気再現できるとよいという意見もあった。
- ・ ニュータウンの中だけでなく、西高野街道や三都神社をPRし、夏ならば大野ぶどう、春ならば西山霊園の桜、梅雨時であれば蛍、これらもメニューとして挙げられる。
- ・ 陶器山自体も鳥の数が多いので、バードウォッチングに向いている。
- ・ 女性が一人で歩くには危険で、以前も事件があった。安全対策の必要がある。
- ・ 予算について、地図を作るのはともかく、桜の植え替え、案内板作成にお金がかかる。また、アンダーパスも計画の中に入っていると思うが、これにもお金がかかる。これらを踏まえて、進める必要がある
- ・ 駐車場の代わりに、市内循環バスの活用も考えられる。例えば、周遊パスを市役所で販売し、200円から500円でどこまでも、何回でも乗っていいという使い方をしてはどうか。

計画 目標	歩道に花と緑があり、楽しい道歩きができるまちになっている
----------	------------------------------

概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道は確保されているが殺風景な部分が多い、潤いがない。 ・ 歩道の美化に関して地域の人は無関心。雑草が茂っているところが多い。 ・ 歩道の凸凹が目立つ（街路樹の根が盛り上がっている）
----	---

時点	節目目標 (マイルストーン)	取組み		備考
半年後	地域の人たちが取組みの趣旨を理解してくれている。	自分たち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自治会へ出向き趣旨を訴える。 ・ 歩道沿いの家に呼び掛ける。 ・ まちきれい隊プログラムの活用。 	
		自分たち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花の苗の購入資金を募金にて調達。 ・ 街路樹に掲げる俳句・川柳を募集。 	
		地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会等で取組検討を依頼。 ・ 南中円卓会議の協力を得る。 ・ 小学校の庭で花を育ててもらおうよう依頼する。 	
		行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街路樹の根が盛り上がっている箇所を調査。 	
1年後	幹線道路沿いの歩道に花が植わっている。 遊歩道として歩く人が増えている。	自分たち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花の苗を購入して植える。 ・ 場所によりプランター設置。 ・ 街路樹に俳句・川柳を掲げる。 	
		自分たち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2か月に1回程度の経過報告会を開催する。 	
		地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生と一緒に花を植える。 ・ 自治会及び南中円卓会議と協力して花を植える。 ・ 花壇の手入れをお願いする。 	
		行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幹線道路沿いの歩道を整備する。 	
5年後	外周道路沿いの歩道に花が植わっている。 遊歩道として歩く人が1.5倍に増えている。	自分たち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花の苗を購入して植える ・ 花を種から育てる。 	
		地域 企業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生と一緒に花を植える。 ・ 自治会及び南中円卓会議と協力して花を植える。 ・ 一休みベンチを設置する。 	
		地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花壇の手入れをお願いする。 ・ 花を種から育てる畑を借りる。 	
		行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外周道路沿いの歩道を整備する。 	

(プロアクションカフェにおける発表)

- ・ 明日からできることは、みんなで道路を歩いてみることである。
- ・ あるいは、自宅で花を植えてみる。花を植えて、花に愛着を持ってもらい、それから道路に花を植えていけば、花を植えている方の協力も得られるのではないか。
- ・ 花は小学校か、障がい者作業所で種から育ててもらおう。小学生に種から育ててもらった場合、その花を花道に植えてもらい、〇〇小学校の生徒が植えた花だと示せば、その花を非常に大事にしてくれる。犬の散歩でも、その花には糞尿をさせないことにもつながっていくという意見が出た。
- ・ 募金箱を市内店舗に置いていただく。また、市内企業については、花の募金以外に、周回道路のベンチ設置への寄付もお願いできるとよい。
- ・ 地域の方の協力は必要だが、それ以外にもボランティア募集をする。ニュータウンの花と緑のまちづくりのためにボランティアを募集していると PR し、ボランティアにつなげていけるとよい。
- ・ 小学生、中学生には花を植えてもらい、高校生、大学生には SNS で花を植えよう、道路を綺麗にしようという情報発信をお願いする。
- ・ 手入れのしやすい花の使用を考えている、今の季節ならばスイセンである。
- ・ また、スイセンだけのスイセン通り、チェリーセージだけのチェリーセージ通りなど、1つの通りにバラバラに植えるのではなく、一種類だけの通りをいくつか作るとよい。
- ・ 予算について、募金で集まればよいが、それ以前に我々でできることとして、市の「市民等からの協働事業提案」に応募し、補助金を受け取る。それで種や花、プランターを購入する。また、土はまちきれい隊をお願いする。

提案 5

子どもから大人までがほっこりできる空間づくり

～ 移動型プレーパーク ～

計画 目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に地域の公園でプレーパークを開催し、子どもから高齢者まで人が集まる機会が広がっている。 ○ 子どもたちと地域の人が、顔の見える関係になることで、子どもたちに伝えたい（自転車のルールやゴミなどのマナー等）を伝える関係が地域の中にできている。
----------	---

概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊ばれていない公園がたくさんある。 ・ 地区で事業(イベント)をしても親子、子どもの参加が少ない。 ・ おまつりの時くらいしか、人が集まるきっかけがない。 ・ ゴミが放置されるなど、まちの中のマナーも悪くなってきている。
----	---

時点	節目目標 (マイルストーン)		取組み	備考
1年後	現状が把握できている。 実現に向けて、地域で企てチームができている。 公園清掃で地域とつながり始めている。	わたし	・ プレーパークを多くの人へ説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレーパークが子どもだけの取組みではなく、誰にとっても集うことができる場であることを伝える。 ・ まずは、現状把握も行いながら、じっくり、企てる側も楽しめること(うれしいこと)を考える。
		自分たち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の中の公園の現状を知る(調査を行う) ・ 公園等の整備を手伝う。 	
		自分たち	・ どんな場にしたいかを考える地域の中に企てグループをつくる。	
		地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずはプレーパークを知る。 ・ 公園を再認識する。 	
3年後	実際にやってみる機会(定期的に)・できる場所(公園等)が増えている。 公園が憩いの場所になっている。	自分たち	・ プレーパークを(定期的に)ひらく	<ul style="list-style-type: none"> ・ もう一つ大切に思うことは、参加者をお客様にしてしまわない工夫。
		自分たち	・ カタチになってきた自分たち流のプレーパークを知ってもらう(広報)	
		地域	・ 自分たちという集まりから地域のこととしての活動へ。	
		地域	・ 公園、空き地等の有効利用を考える。	
5年後	コンテナ車利用など、新しいプレーパークのチャレンジができている。	自分たち	・ 継続しやすいプレーパークの運営を見直す	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドイツではコンテナ車でいろんな場所に移動しながらプレーパークを開いているようなので、そのような体制ができると活動の幅が広がる。
		地域	・ プレーパークだけでなく、人が集える新たな方法を企てる。	
		出資者	・ コンテナ車等の提供	

第五次大阪狭山市総合計画「まちづくり市民会議」

1. 委員名簿

狭山中学校区	南中学校区	第三中学校区
上田 幸男	浅野 齊	大北 純輝
大西 圭介	小川 生美子	小松 茂美
尾崎 聖磨	奥田 はるか	酢谷 貢
西野 榮一	梶田 凌	辻 信夫
花田 全史	川島 一恭	辻 八重子
政木 進久	菊屋 英一	中井 義文
真弓 喜代教	俵 益生	南 七海
山村 正則	夏目 幸子	宮崎 俊三
	橋本 巖	安光 正美
	針田 美子	
	東留 博孝	

(各中学校区で五十音順、敬称略)

オブザーバー (まち歩き)
上甫木 昭春 (大阪府立大学大学院教授) 大阪府立大学大学院生

(敬称略)

2. 開催経過

第1回 【テーマ】まちづくり市民会議について

- 【日 時】 平成 30 年 7 月 27 日（金曜日） 19：00～20：30
【場 所】 大阪狭山市役所 第一会議室
【出席者】 26 名
【内 容】 総合計画の概要やまちづくり市民会議の今後の進め方について、情報共有を図るとともに、委員による自己紹介を行いました。



第2回 【テーマ】10年後の「おおさかさやま」はどんなまち？

- 【日 時】 平成 30 年 8 月 19 日（日曜日） 10：00～12：00
【場 所】 大阪狭山市役所 第一・第二会議室
【出席者】 37 名（市職員を含む）
【内 容】 「おおさかさやま」の魅力について、ワークショップ形式により議論し、それらを踏まえ、自らが描くまちの将来像や、その将来像の実現に向けて自らができることを考えました。



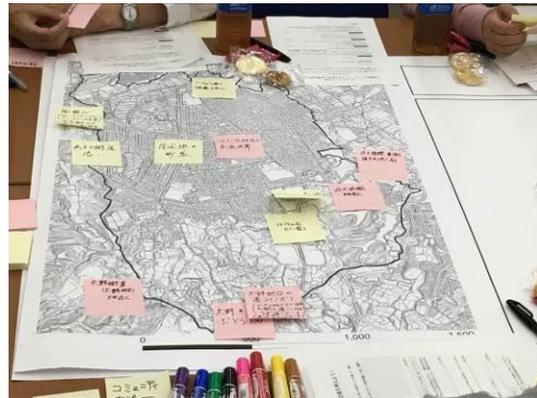
第3回 【テーマ】まち歩き企画を考えよう！

【日 時】 平成 30 年 9 月 26 日（水曜日） 19：00～21：00

【場 所】 大阪狭山市役所 第一会議室

【出席者】 22 名

【内 容】 中学校区ごとに、地域の良いところや気になるところなどについて話し合い、それらを踏まえ、次回に行う予定の「まち歩き」のコースを企画しました。



第4回 【テーマ】まちを歩いてみよう！

【日 時】 平成 30 年 11 月 4 日（日曜日） 10：00～13：00

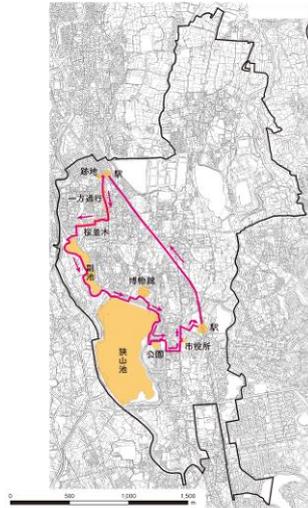
【場 所】 市内、大阪狭山市役所 第一会議室

【出席者】 21 名

【内 容】 前回の会議で考えた「まち歩き」のコースをもとに、地域にお住まいの方の案内もいただきながら、他の地域の人と地域を歩いて回りました。地域外にお住まいの方の気づきも得ながら、各地域の魅力や課題を共有しました。



<まち歩きのコース>



【狭山中学校区】

- 出発 市役所
- 徒歩5分
- 大阪狭山市駅
- 電車で2分(各停)
- 狭山駅
- 徒歩1分
- 富士車輛跡(ハーモニータウン), 駅周辺
- ・池尻地区
- ・自由丘桜並木
- ・副池西側歩道
- 徒歩65分
- ・副池パーキング
- ・狭山池博物館
- ・さやか公園
- 市役所



【南中学校区】

- 出発 コミセン周辺 (15分間隔通学)
- 車で10分
- ・いちよう通り
- ・東大池公園
- 大野ぶどう
- 車で5分
- 西山霊園
- 徒歩20分
- 陶器山(あまの街道)大野台7丁目
- 車で5分
- 狭山ニュータウン名店街



【第三中学校区】

- 出発 市立公民館
- 徒歩10分
- おわり坂
- ・牛滝地蔵
- 徒歩10分
- 三津屋地蔵
- ・三津屋太子堂
- 徒歩10分
- 新道の地蔵さん
- 徒歩10分
- 下野町の地蔵さん
- 徒歩10分
- 茶莢木八幡さん
- 徒歩10分
- (松田家 国の登録有形文化財)
- 徒歩5分
- 南青少年運動広場

第5回 【テーマ】各地域での、これから10年のまちづくりを考えよう！

【日 時】 平成30年11月14日（水曜日） 19:00～21:00

【場 所】 大阪狭山市役所 第一会議室

【出席者】 20名

【内 容】 これまでの「まちづくり市民会議」や、「まち歩き」での気づきをもとに、まちづくりへの提言書の作成に向けて、各地域でのこれから10年のまちづくりの課題と方針を共有し、今から取り組んでいけることについて考えました。



第6回 【テーマ】明日からできるまちづくりを始めよう！

【日 時】 平成30年12月16日（日曜日） 10:00～12:00

【場 所】 大阪狭山市役所 第一会議室

【出席者】 31名（市職員を含む）

【内 容】 市民委員のうちから数名の方に提案者役を担っていただき、明日からできるまちづくりの提案をしていただきました。それぞれの提案ごとに1つのテーブルを囲んで、他の市民委員とともに、実現性を高めるためのさまざまなアイデアや意見などの情報共有を図りました。



第7回 【テーマ】論点を整理して、提言の内容を煮詰めよう！

【日 時】 平成 31 年 1 月 23 日（水曜日） 19：00～21：00

【場 所】 大阪狭山市役所 第一会議室

【出席者】 18 名

【内 容】 これまでのまちづくり市民会議での議論を踏まえ、市民会議の提言書の取りまとめに向けて、地域の将来像やそれを実現していくために地域で取り組めることなどを議論しました。



第8回 【テーマ】市民会議の提言書を仕上げよう！

【日 時】 平成 31 年 2 月 18 日（月曜日） 19：00～20：30

【場 所】 大阪狭山市役所 南館 講堂

【出席者】 20 名

【内 容】 これまでのまちづくり市民会議での議論を踏まえ、市民会議の提言書の取りまとめに向けて、最終の議論を行いました。



